

After With コロナを考える

～哲学・医学・法学の学際シンポジウム～

開催日

2023年

9/9 土

時間

13:00～18:00

場所 宇都宮大学 峰キャンパス

UU プラザ

参加無料

対面 70名

オンライン 100名

before COVID-19

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、最近では日本でもほぼ日常生活を取り戻しつつあるように思います。しかし、コロナ問題での教訓を記憶に留められるように、<after コロナもしくは依然として with コロナ>をキーワードに、医学×哲学×法学の学際的な対話の場をとちぎから展開したいと思います。

2020年からの、いわゆるコロナ禍のさまざまな社会不安では、リスク・コミュニケーションの問題、そして、健康（医療）か自由（経済）かといった21世紀の文明社会における選択の問題がありました。

コロナ問題から、さらに遡って東日本大震災において、私たちは何を学び、また、何を学んでいなかったのか（あるいは忘れてしまったのか）？ 皆様と共に考えたいと思います。ご参加を心よりお待ちしております。

総司会 国立病院機構 栃木医療センター 放射線科 医長 村上 恵理

13:00～ 開会挨拶 宇都宮大学 共同教育学部 准教授 山田 有希子

13:10～

基調講演

パンデミックの倫理に向けて
～「トリアージ」問題を軸に～

武蔵野大学 教授 一ノ瀬 正樹
東京大学 名誉教授

14:40～

コロナをめぐる医療現場と内と外

法学
(行政法)

感染症対策と法制度

國學院大學 法学部教授 高橋 信行

医療
行政

保健所から見た新型コロナウイルス感染症

宇都宮市保健所 所長 羽金 和彦

哲学

医療をめぐるケアの問題

愛知大学 法学部准教授 吉良 貴之

医療
現場

医療現場からみた COVID-19 パンデミック

国立病院機構 栃木医療センター 内科医長・副部長 矢吹 拓

17:50～ 閉会挨拶 村上 恵理 山田有希子

申し込み
問い合わせ



シンポジウムでは、
法学×医学×哲学
の各分野の専門家
に登壇いただき、
とちぎにおけるコ
ロナ問題の現状と
課題を考えます。

プログラム